【　2024年度　　聖隷こども園・保育園　施設関係者評価　】

**目的**：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、

お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

**評価日・評価者**

評価日　　　　２０２４年　　　１０月　　　２２日

評価者　　　　園　名　　　聖隷浜松病院ひばり保育園

役　職　　園長　　　　氏　名　　　森下　美由紀

評価者　　　　園　名　　　聖隷こども園こうのとり豊田

役　職　　園長　　　　氏　名　　　　髙木　智美

**【保育・教育理念】**

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。

・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。

・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

コメント

聖隷の保育、教育理念の根幹であるキリスト教保育についての知識を深めながら、新規立ち上げより６年目の園として若手とベテランが着実に育んできた歴史を感じた。中堅層の職員がクラスの核として運営を任されており、若手指導や非正規職員との連携を図られ、子どもたちの生活や遊びの自主性や自発性が大切にされる保育、自己表現を盛んに行える保育について考え実践していた。

また、子育て支援については、対応についての課題に、園全体で支援を行えるよう改善する試みが成されていた。

**【人権尊重】**

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

コメント

乳児クラスでは、育児担当制保育を実践しており個々を大切にした保育の実践が行われていた。一方、幼児クラスでは一斉的な活動が見られ、保育者主導の雰囲気も感じられた。全員で一斉に行う製作などは子どもの活動が制限されがちであり、そのような保育展開について、当たり前の日常（関り、配慮）を振り返る機会が持てると、今以上に子どもの人権を大切にした保育が展開されていくと感じた。

建物の特性上、配慮を要する子どもが複数名在籍していたり、共に生活していたりするが、個々の思いが尊重されるような、一人ひとりへの対応が丁寧になされている場面もいくつか見られた。

**【情報保護】**

個人情報の保護は適切であるか。

コメント

園長管理の基、個人情報に関する重要書類、緊急連絡表、記録などで職員が使用するパソコンやタブレットなどの端末類などは、鍵のかかる場所にて保管管理していた。また、園内研修の計画に組み入れ個人情報、法令順守の研修を職員に実施している。

**【苦情対応】**

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

コメント

入園時や懇談会実施の際には必要に応じて説明を行っている。また、園だよりなどでも保護者へ向けて情報発信を行っている。その他、意見箱の設置、苦情などの受付・解決の窓口の周知については園内にて掲示案内をしている。

保護者よりいただいたご意見に関しては、具体的に職員会議などの場において問題解決、改善についての話し合いを重ねる場を設けている。

**【保健・衛生】**

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

コメント

ICTシステムを活用し、家庭からの子どもの健康に関する情報提供と合わせ、子どもの健康観察を行っていた。園内は清潔に保たれ、子どもが使用する玩具や物に関して、定期的な消毒がされている。また、職員は感染症マニュアルを把握することで自身が感染源にならないことや、保育室に消毒液を設置するなどして感染予防に努めていた。保健部会の開催においては、複数ある聖隷のこども園保育園に在籍する看護師より、細やかな自園に関する感染状況等の情報共有を経て対策強化を行っている。

**【安全】**

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

コメント

年間計画に、いつ、何をなすべきか子どもの安全確保に必要な取り組みを盛り込み実践的な訓練や研修の実施をしている。リスクの高い場面(午睡、食事、水遊び、園外活動)、緊急的な対応が必要な場面(災害、不審者侵入)など、資料を基に留意点を改めて確認し、マニュアルの見直しなどを行っている。事故発生防止に向けた環境づくりには職員間のコミュニケーション、情報共有、事故予防のための実践的な研修を行うなど組織的に取り組んでいる。

**【運営】**

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

コメント

認定こども園の認定基準により国から示された職員配置を満たしている。職員のシフト管理、日々の職員配置に関しては主幹保育教諭が状況に応じ欠員が出ないよう丁寧に適正配置を組み、職員の休みを保証しつつ最善に行われている。

設備に関しては、点検が行われ子どもが安全に使用できるよう配慮されている。

**【環境美化】**

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

コメント

季節の花が園内の所々へ飾られ、手入れが行き届き清潔な印象を持った。

園庭は、人工芝が敷かれており花壇や植樹があるが、枯れ草、落ち葉などなく整備、管理されていた。

**【保育室】**

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

コメント

年齢発達に合わせ環境を通した保育を意識し実践しているクラスがあった。安心できるスペース、机上遊び、積み木やブロックスペース等に分かれており、好きな場所、好きな遊びをいつでも手に取り取り組める環境に、温かさが感じられた。

**【保育内容】**

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

・神さまから預かったいのちとして大切にされる

・大人の愛情に包まれ、安心して過ごす

・意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

・保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う

・歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる

・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる

・全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる

・さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

・保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ

・あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4歳児

・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む

・あそびを通して基本的な自然や物事の特性を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5歳児

・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす

・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的

に行事やクラスの運営を行う

コメント

クラスだよりでは、キリスト教保育で掲げられる「月の主題」に沿って、ドキュメンテーション、エピソードを載せている。保育者の思いや各年齢ごとに大切にしたい事柄について主体的に話し合いが行われていることを感じた。

**【全体を通して】**

コメント

子ども一人ひとりを大切に思う保育者が集い、子どもの健やかさを支えている。くつろぎや、食事、睡眠、遊びを通して、言葉を交わし合い豊かな時間を共に過ごしている。様々な経験層の職員がいる中、中堅層が園の中心となっており、子ども主体の保育を職員同士が連携をとって、確認し合える雰囲気があることを感じた。一方、コミュニケーションやチーム力の面では課題も感じるが、園長、主任が必要に応じて介入し、保育者と共に課題解決しようとする姿は、保育者の安心感へと繋がっていると思われる。